

施策分析シート（平成21年度）

No1

施策名	総合的な交通体系の整備	施策No	12-03	部課名	都市整備部都市計画課
関連部課名					
行政評価	分野	安全安心都市[]			
事業体系	政策	利便性の高い都市基盤の整備[12]			

目的 公共交通機関の充実を図るとともに高齢者、障がい者等の移動や施設利用の利便性・安全性の向上を推進する。

指	施策の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		18年度	19年度	20年度	21年度	目標値 (28年度)	
	新バリアフリー基本構想策定の進捗率	-	-	-	50%	100%	区全体基本構想策定：50%、重点整備地区別計画策定：100%
	日暮里駅総合改善事業の進捗率	46.7%	63.7%	80.5%	100%	100%	整備進捗率（既整備分工事費 / 総事業費） 21年度事業完了予定
	日暮里駅周辺地区交通バリアフリー進捗率	50%	69.5%	74.5%	85%	100%	工事進捗率（【道路】整備済延長 / 必要整備延長と【施設】整備箇所数 / 必要整備箇所数の平均） 22年中に事業完了予定

現状と課題（指標分析）

平成17年8月につくばエクスプレスが開業し、20年3月には日暮里・舎人ライナーが開業するなど、これまでのJR線、京成線、地下鉄、都電荒川線と併せ、区内の鉄道交通の充実が図られた。さらに、平成22年度には、日暮里・成田空港間を36分で結ぶ、成田新高速鉄道が開業する予定であり、日暮里駅の交通結節点としての役割が飛躍的に高まる。

年々、鉄道駅構内のバリアフリー化は進んでいるが、駅周辺のバリアフリー化は十分でない状況にある。

区内の鉄軌道の多くは南北に走っており、東西交通は都電荒川線のみで、南千住駅東側への交通手段が少ない状況である。このような中で、コミュニティバスさくらは利用者が増加傾向にあり、20年度には汐入地区にコミュニティバス汐入さくらを導入した。

区内の交通体系整備は進んでいるが、公共施設等の利用の利便性や環境交通対策への取組が不十分である。

今後の方向性

《今までの成果及び指標分析を踏まえて》

成田新高速鉄道が平成22年度に開業を迎えられるよう、円滑な工事の進捗を図り、適切な進行管理を行う。

新法に基づく区全体のバリアフリー基本構想を策定し、優先される各地区を重点整備地区と位置づけバリアフリー化を図るとともに、日暮里駅周辺地区交通バリアフリー基本構想に掲げた事業を各事業者確実に実施させるため、ひきつづき進行管理を行う。

区民の公共施設等の利用の利便性向上や自家用車等の利用抑制のため、自主運行によるコミュニティバス路線拡大の可能性について検討する。

施策の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	交通網の整備を進めるとともにバリアフリー化を図る必要がある。

施策分析シート（平成21年度）

No2

施策を構成する事務事業の分類						
事務事業名	事務事業 No	決算額（千円）		施策推進のための 分類		分類についての説明・意見等
		19年度	20年度	前年度 設定	今年度 設定	
日暮里・舎人ライナーの 利用促進	09-01-04	813,455	4,718	継続	継続	沿線地区の活性化のために利用 促進を図る必要がある。
バリアフリー整備促進事 業	09-01-07	16	48	重点的 に推進	重点的 に推進	高齢者等の移動や施設利用の利 便性を確保するための最優先の 事業である。
日暮里駅総合改善事業	09-01-11	192,250	190,000	推進	継続	日暮里駅を世界の玄関口にする ために必要である。（21年度末 工事完了予定）
コミュニティバスの利用 促進	09-01-18	6,260	28,668	重点的 に推進	推進	高齢者・障がい者の日常生活の 足として欠かせないものであ る。
つくばエクスプレスの利 用促進	09-01-19	70	70	継続	継続	沿線地区の活性化のために利用 促進を図る必要がある
合 計		1,012,051	223,504			